

議 事 録

会議名	第3回寒川町学校給食センター整備外部検討委員会		
開催日時	平成31年2月18日（月）15時00分～17時00分		
開催場所	町民センター1階 会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>■出席者 長沼委員、古山委員、岩井委員、山崎委員（委員長）、中村委員、三木委員（副委員長）、鈴木委員 （出席者名は要綱の順による）</p> <p>■欠席者 柏木委員</p> <p>■傍聴者 5名</p>		
議 題	<p>議題（1）寒川町の方針 （2）寒川町の学校給食センター整備の基本方針等</p>		
決定事項	—		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>議題 （1）寒川町の方針…資料1 【事務局】 参考資料1「寒川町学校給食センター基本構想・基本計画 目次（案）」資料1「寒川町の方針」の説明を行った。 【委員長】資料1について意見はあるか。 【委員】（意見なし） 【委員長】資料1の内容については、委員から承認いただいた。</p> <p>（2）寒川町の学校給食センター整備の基本方針等…資料2 【事務局】 資料2の説明を行った。 【委員長】資料2は、基本方針に対するセンターの具体的な整備方針となる。前段の方針は「給食のこころ」に対応した8つの花卉に対する具体的な方針になり、後段の諸室等についてはハード面に関する内容が検討課題かと思う。まずは前段の整備方針について意見はあるか。 【委員】（意見なし） 【委員長】ライフサイクルコストは20～30年と説明があったが、建築の長寿命化を考えるとライフサイクルコストはもっと長く、80年程度を目標にするといわれているので、厨房関係の設備は早い間に更新をしないといけないが、建築自体は長寿命化を図ることが必要かと考える。 具体的に年数を記載する必要はないかと思われるが気になったため言及した。</p>		

【委員長】1-7の環境負荷の低減については、公共的な施設は環境負荷を低減していくかというテーマもある。エネルギーを使う施設なので、省エネや自然エネルギーの活用等をどのように提案されるか興味がある。記載内容としては、ここに書かれている内容でよいかと考える。今後提案のイメージが膨らめばよい。

【委員長】他に意見がないようなので、必要諸室や配置について、意見はあるか。特に機能に関連する内容、どのような用途でどのような室名が対応しているか。P6には具体的なゾーニングのイメージがある。表2-1、図2-1このあたりについて、確認していただき意見はいかがですか。

【委員長】付帯設備、機械室とありますが、これは空調と電気の両方入れるということか。

【事務局】込みということよい。

【委員長】施設の配置に関しては理想的なモデルというイメージか。

【事務局】そのとおり。

【委員長】他はいかがでしょうか。

【委員】(意見なし)

【委員長】3の候補地の検討についてはいかがでしょうか。

ここでは、食数が4,400食、敷地面積が本来なら4,000㎡程度欲しいところであるが、候補地が提案されている中で企業庁の土地は4,000㎡あるが、建築できる部分が1,700㎡程であるのは気になるところであるが、ご意見はいかがか。

【鈴木委員】神奈川県企業庁の所有地は、賃貸で費用が発生するのか。建築可能面積が1,700㎡とのことだったが、健康管理センターの方が広くそっちでも可能ではないのか。建物を長く使うのであれば町の土地に建てたほうが将来的には良いのではないかと思うがどうか。

【委員長】確認であるが、健康管理センター用地は2,900㎡だが隣接地を含めて5,000㎡ということよい。

【事務局】そのとおりで、敷地は4,000㎡～5,000㎡必要であるが、敷地全部に建築する訳ではない。建築面積では2000㎡程度あるとよい。また、借料に関してはまだ決まっていない。

【委員長】面積は、2,900㎡あれば健康管理センターでも可能かということかという意見だと思うが、建築の延床面積がどうなるのかという問題がある。延床面積の根拠はどうなっているか。

【事務局】今回の資料では出していない。

各諸室が収まるかを検討するものであって、必要最低限の延床面積は第2回外部検討委員会の時に出している資料を元に考えている。

また、3階の食育スペースをどのくらい確保するかで延床面積は変わってくる。想定食数の調理に必要な厨房機器が入ることは確認している。

【委員長】 おおよそ 3,000 m²くらいが一つの目標という認識はもってよろしいですよ。

【事務局】 おおむね、3,000 m²前後を目標と考えている。健康管理センター用地の建蔽率を考慮すると延床面積の条件を満たすのは難しい。

【委員長】 後段のゾーニングのイメージが出ているが、整備方針とあわせてご意見はあるか。

【委員長】 各階の延床面積はどのくらいか。

【事務局】 1～3 階の合計は 3,000 m²くらいが目安で、1,2 階がそれぞれ 1,200～1,300 m²程度である。

【委員長】 皆さん大きさのイメージがつかますか。

【委員長】 明日視察に行く南アルプス市の給食センターは、食数は約 4,000 食で床面積は 3,000 m²くらいと同規模であるが、調理場はほぼ 1 階に収まっている点なのでそこが違っているという感じでしょうか。

南アルプスさんの機能は特段他にあるわけではないか。

【事務局】 南アルプス市では、食育スペースや見学スペースを広めに取っている。

【委員長】 3 階の食育スペースには専用の厨房を設けるとのことであるが、研修室だけではなく厨房をあえて設けるということか。

【事務局】 現段階では、食育スペース専用の厨房ということで、将来的に幼稚園や高齢者施設向けの調理を含めた専用の厨房の活用の可能性もあると想定している。

【委員長】 候補地 3 と候補地 4 の話と一緒にしているが、ご意見はあるか。

ゾーニングが気になるころではあるが食材や人の上下の動きが出てくるので動線や安全性の問題など気になる部分はあるかと思います。

【鈴木委員】 3 階建ての給食センターは川崎市と府中市しか見つけられなかった。府中は 2 万食以上で大きい。明日、南アルプス市に視察に行くのも良いが、同じ条件の 3 階建ての給食センターに視察をして、運用面の課題等をヒアリングする必要があるのではないか。どの機能を 1 階に持ってくるのかを検討した方がよい。川崎市は狭い敷地だったため 3 階になり、オール電化にしてボイラー室を調理場にしたということだった。ゾーニングで見学スペースは、大事な部分であるので、食材が入ってきてから、出来るまでのすべての行程を見られる見学路があった方がよいと考える。食材を受け入れてから調理室に行くまでの導線が複雑だと思う。特にお米の運搬動線は長すぎるため、工夫が必要であると感じた。川崎市では、エレベーターのすぐ上を検収室にする等の工夫がなされていた。府中市は規模が違うが、食材を運ぶのに 3 階までスロープを設け、トラックで運べるようになっている。地産地消の面から見ると、寒川町は果物が採れるため、果物処理室があると良いと思う。食缶の保管室について、2 階に食缶保管室があるようだが、ゾ

ーニングイメージでは見当たらない。含まれていればよいが、別途置く場合はもっと面積が必要になるのではないか。

【委員長】あくまでもゾーニングで計画案というわけではないが、敷地候補地の問題と建築面積、それと延床面積の関係もある。

府中市は食数が多く、敷地がかなり広いので、スロープ等については今回の参考にはならないかと思う。外部の空間として、スロープは難しいと思う。機械室やボイラー室は要検討かと思う。機械室やボイラー室が地下という選択はあるか。地下水位は高いか。

【事務局】寒川町は平均的に地下水位が高い。

また、対象用地は川のそばのため、その影響も考慮する必要がある。

地下は想定しないほうが望ましい。

また見学通路については、参考資料2の事例のように、誰もが外から見られる見学窓を検討中である。また、モニター等で補完することも考えられるのかなと思う。

【委員長】外の見学できるのは、中からは見られないからなのか。

【事務局】中からも見られるが、さらに外の見学窓からも見られるつくりになっている。

【委員長】私も同じく中から外からも見ることができるとよいと思う。

1階の部分は見れなくても問題ないか。

【鈴木委員】今も子供達も帰り際に見たりもしているが、センターの洗浄室とかになると機械がたくさんあって楽しいかもしれない。

メインは2階がいいかと思う。食材の流れとかもよくわかるので。

【委員長】炊飯室が遠いという米の運搬について解決方法はあるか。

【岩井委員】別の例だと、炊飯については、1階で米タンクに入れば、パイプで自動で2階に圧送して洗浄して炊飯器まで運べる機器はあるため問題はない。今はすべて自動になっている。

納品の時のお米のタンクは必要だが、特別な装置ではない。

【委員長】学校の給食センターでの事例はあるか

【岩井委員】病院でできるということは学校でもできると思う。

【事務局】明日見学予定の南アルプス市も、米庫から炊飯機まで圧送していてその仕組みを備えた機器が入っている。

【委員長】技術的な話かと思うが、食管の保管庫の話が出てたが、必要諸室としてあるが具体的にゾーニングでどこに入るのか。

【事務局】ゾーニング図に含まれており、それぞれの調理場にパススルーで配置されている。

【委員長】このボリュームでやるのはかなり厳しいと感じている。

これ以外の土地はないのか。

【事務局】ゾーニングのモデルは企業庁の用地のものであるが、一番条件が悪いところであることから、もし当該用地以外で検討しても、建物は収まると想定して作成した。

【副委員長】3階建てになることでのデメリットはどのようなところか。

【事務局】エレベーターが増えるためランニングコストがかかる。また、上下方向の動線が増加する。しかし、一方で空間の区域分けを明確にできるという利点もある。

【副委員長】南アルプス市の給食センターは調理場が平面に整備されている。その必要面積が取れる、健康福祉総合センター用地の方が良いのではないかと。建築基準法の許可が下りればできるのではないかと。

【事務局】第一種住居地域に指定されており、県の建築指導課にも相談しているが、建築基準法第48条の許可を取るのには難しいと回答を得ている。

【中村委員】企業庁の土地は借地になると思うが、長期間借りられるのか、もしくは将来的に買い取るのか。

【事務局】詳細の検討はこれからであるが、少なくとも建物の耐用年数期間は借りる予定である。

【委員長】敷地の北側からはアクセスできないのか。

【事務局】現時点で一番確実な方法でゾーニング図を作成した。今後検討は進めていく。

【岩井委員】

広さや位置についてはわからないが、規模がある程度制限される中で、経営資源である土地や機械をどのように分割し活用し、町全体の資産として運営するかが重要である。既存の調理場があるため、改修して給食センターで対応しきれない部分の役割を分担することもできるのではないかと。また、これから働き手が高齢化することが予想されるため、機器は可動式のものを入れる必要があると考えられることから、可動式の器機を動くスペースを配慮することが必要かと思う。この案だと大型機器を配置して調理することを想定しているようだが、大型機器は一度壊れると停止してしまうため、小型や中型の機器を複数入れたほうが、故障時にも対応でき有用である。また、ゾーンが交差しているのはよくないと思う。汚染区域と非汚染区域が交錯しないことが重要。配食は、食缶しか考えていないのか。調理システムはクックサーブ方式しか考えていないということになる。今は機器類で冷凍保存ができるので、冷凍冷蔵の段階で各学校に配食して、そこで保管をして、学校で温める等の多様な方式を想定した計画とすることが望ましいと考える。多様なものに対応するには計画的に作っておかなければいけない。もう少し、サービスや生産の方式を詰めてほしい。また、食育は実践教育が一番

である。実践教育とは、やはり会食できるスペースで、全校でなくても交代で会食ルームに入って、テーブルマナーや献立の説明ができるスペースを各校に一つ設けるべきである。最初に申し上げたが、給食は180日しか年間稼働しないため、非効率で採算性が合わない。採算性を持たせるためには365日稼働できる仕組みを考えないといけない。

高齢者への配食や子供食堂等のサービスを考えてもらいたい。

アレルギーやそれ以外に、咀嚼への対応、他に外国籍の子どもに対応したハラル等の食事などの多様なものに対応できるというのが給食センターの一番のメリットになるといったところを強調できるというのではないか。

【委員長】既存の給食室をどうするかという話が出ましたが、調理方式と連動すると思いますが、クックチル等の調理方式は建築的な面積とどう関係するのか。

【岩井委員】大きく関係するのがチルド庫ただ、それを給食センターで持つのか。それとも各施設で持つかで給食センターの施設の大きさが変わる。真空調理法はスチームコンベクションオープンで真空で調理するため調味料も少なく浸透圧で味も奥まで入っていくので短時間で調理できるメリットがある。

【委員長】その調理法の学校給食での運用実績があるか。

【岩井委員】学校給食での実績はない。病院の事例は多少ある。主にホテルやレストランで実績がある。病院では色々なメニューを少ない人数で計画的に調理できるのがメリットである。

【委員長】学校給食での事例を聞いたことがないため、衛生面や設備コスト、技術的な面等での心配な面もある。

【岩井委員】

ホテルパンで作ってそれで出すという配膳方法ができるので、面積を縮小できる部分もある。

【委員長】受け入れ側のほうでクックチルやクックフリーズで対応している事例がほとんどなかった。

【岩井委員】一番問題なのは衛生管理だが、今は冷蔵で管理できる。細菌が繁殖しやすい温度帯を避ければよい。

【委員長】設備コストや受け入れ側の問題などが心配な点もある。

【岩井委員】給食センターで作って配送する。これは温度とともに時間が下がる。問題は学校側で温める等の設備を整える必要がある。

今は、学校側に施設があるんですよね。

【委員長】施設を集約化していくという流れの中で、自校方式で分散すればよいのではないかという流れになるのではないか。

【岩井委員】それは、大きな違いで、生産製造を1か所で行うという点がある。

【委員長】既存の学校でそのあたりの対応ができるかということですが。

でしょうか。

【事務局】やはり一番は保護者や生徒が安心して食べたいという点であるかと思うが、これまでのなじみのある給食の提供方法を尊重する必要がある。

また、冷凍機器や再加熱機器の導入は、小学校を大規模に改修する必要があり、給食を一時ストップすることが想定され、ハードルが高い。費用面も想定より高いことを聞いている。今後の方針としては、オーソドックスな形で検討させていただきたい。食育スペースの厨房は稼働余地があると思うため、今後の活用における宿題とさせていただきたい。

【委員長】学校も今後複合化する話も出てくると思うことや、地域で食育対応を考えていくということを学校側でも考えるべきことかと思う。学校側にすべての機能を負わせるというのは、それでいいのかと。高齢者のスペースを給食センターに作ったりしてはどのくらいの利用率なのだろうかということも懸念材料である。また、センターの稼働率を上げるということだが、多様化するということがよいか。

【事務局】まずは、安全安心に提供でき、保護者や児童生徒が安全は元より安心していただだけき、その中で余力があれば他の内容についても検討していく。

【委員長】大型機器から中型、小型機器をとという点では、リスクマネジメントという観点から、適正な設備の個数と容量を検討するということがよいか。

【事務局】はい。

【委員長】多様化への対応についても、どう図っていくかという点ですが、建築面積や設備にどのように影響があるか気になるが、学校での対応も含めて今後検討していくということで理解した。

【古山委員】様々な話があるが、建てる場所が決まらなると話が進まないため、個人的には健康福祉総合センター用地に建てる方がよいのではないかと考える。候補地の案は、いくつか考えておいたほうが良いと思う。

【事務局】町としては法令等の要件や、法令に基づき指導する立場にもある。地権者の意向もあるため、優先順位を決めて検討していきたい。

【古山委員】資料1の基本方針の最初に「多方面から」と入っているが、それを入れることで表現が曖昧になっているので、ここをもう少し具体的に書かないと理解を得られづらいのではないかと。

【事務局】事務局で引き取り検討する。

【委員長】いただいた意見を事務局でまとめてもらうということでよいか。

【委員】（意見なし）

3. その他

【事務局】次回第4回外部検討委員会は、平成31年4月下旬を予定している。

	<p>【長沼委員】 そのころには用地は決まっていなかったのか。用地が決まっていなくてイメージがもてず実際に関わる立場として議論しにくい。建築面積が今以下の1,700 m²以下になると、課題は増えると思う。</p> <p>【事務局】 法令の制限等があり、手戻りがないように調べておく必要があり、次回委員会の時には、まだ検討は終わっていないと思う。6月くらいに終わる見込みのため、終わったら報告する。</p> <p>【委員長】 委員に対する宿題はないか。</p> <p>【事務局】 計画の構成をまとめているため、見ていただきたい。</p> <p>【中村委員】 場所が決まらない状態で第4回委員会を開いても、概算事業費の話があってもないことと同じと感じる。次回委員会の時には場所は決まっていなかったら、場所が決まった後に事後報告を受けるということか。</p> <p>【委員長】 用地の条件整理としては資料のとおりでよいか。</p> <p>【事務局】 よい。</p> <p>【事務局】 以上で、委員会を終了します。</p>
<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 寒川町の方針（寒川町学校給食センター基本構想・基本計画） ・資料2 寒川町学校給食センター整備内部検討委員会 検討資料 ・参考資料1 寒川町学校給食センター基本構想・基本計画 目次（案） ・参考資料2 学校給食センターの整備方針 補足資料
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>出席委員全員により承認（平成31年3月18日確定）</p>